

犬バベシア (*Babesia gibsoni*)

★検査材料は遺伝子専用としてお送りください。遺伝子以外の項目と重複している場合は必ず遺伝子用に材料を分けてください。

項目名	検査材料	送付方法	所要日数	検査方法	検査項目の説明、注意事項
犬バベシア 遺伝子★	全血 (EDTA 処理) 0.4mL	常温 冷蔵	4日 以内	PCR	<ol style="list-style-type: none"> 我が国で臨床上問題である <i>Babesia gibsoni</i> の感染を検出します。 本原虫症を疑う症状（貧血など）を呈している場合、または遺伝子陽性例の治療効果確認の場合には遺伝子検査が適当です。 感染後早ければ2日目以降で検出が可能となります。 検査対照（内在性コントロール）として血液中のβアクチン遺伝子の検出も同時に行います。（凝固サンプルの際にDNAの抽出が適切に実施できたかをチェックすることができます。） 本検査は帯広畜産大学原虫病研究センターおよび麻布大学獣医学部内科第2教室のご指導のもと、実施しております。 凝固したサンプルでは検査が実施できないことがあります。
犬バベシア 抗体	血清（血漿） 0.05mL	常温 冷蔵	5日 以内	ELISA	<ol style="list-style-type: none"> 治療により回復した場合であっても長期間原虫が潜伏感染状態となる例が存在し、ストレス、薬剤、手術などで感染が再燃することがあります。このため、特に臨床症状がない例に対して本原虫感染をチェックする手段として抗体検査が有効です。 また発症後長期間（1年以上）が経過している例で遺伝子が陰性の場合の追加検査としても抗体検査は有効です。 抗体上昇までには2週間ほどかかります。 本検査の実施には帯広畜産大学原虫病研究センターのご協力をいただいております。

【バベシア感染後の遺伝子と抗体価の推移】

